

平成17年6月30日(木)

3年教室 第3校時

授業者 本田 博

1, 単元名 「本と友だちになろう」(三年とうげ)

2, 単元の目標

◎「三年とうげ」を読んで、おもしろいと思ったことや心に残ったことを友達に紹介することができる。

◎書こうとすることの中心を明確にして、友達が読みたくなるような「本の帯」を作ることができる。

◎図書館や図書室での本の分類の仕方を理解し、読みたい本を探すことができる。

3, 指導の立場

(1) 単元について

今の子どもたちは、活字より映像を選択する傾向が強い。しかし、物語には、豊かな想像を広げ映像とは違った楽しさの世界を広げてくれる働きがある。「三年とうげ」には、朝鮮半島の農村の雰囲気表現した挿絵に特徴があり、登場人物の姿やトルトリの巧みな機転で、不運を幸運へと百八十度転換する話には、なぞなぞにも似た面白さがある。この「三年とうげ」をきっかけとして、アジアや他の国々の民話などに興味を持ち、進んで読もうとしてくれることを願う。

(2) 教材について

「三年とうげ」は、朝鮮半島の民話である。物語全体に流れるリズム、テンポの良さがある。民話の特色である言い伝え、民衆の知恵がうまく表現されている。

用心していたにもかかわらず、「一度転ぶと三年きりしか生きられぬ」という言い伝えのある「三年とうげ」で転んでしまい、おじいさんはとうとう病気になり、寝込んでしまう。そんなおじいさんを「三年とうげで、もう一度転ぶんだよ」「一転べば三年生きるんだろ。二度転べば六年、・・・」こういったトルトリの発想の転換、プラス思考の考え方に寝ていたおじいさんが気づき、布団から跳ね起きて三年とうげへ行き、わざとひっくり返る。何度もひっくり返る。言葉のリズムや機転の利くトルトリの言葉、おじいさんの心情の変化など面白さがたっぷり詰まった品である。話し合いや音読を通して、民話の面白さに浸らせたい。

寝
度
の
三
転
作
(3)

本時について

「三年とうげ」では、毎時間全文音読を1回すること。いいなあ、好きだなあと思ったところ(特に言葉)には線を引くこと、そして感じたことを少しでも書き込みをすること。こんな事にこだわって学習を進めてみたいと思う。本時も、音読した後4場面に入り、書き込みをするようにしていきたい。書き込みを通して個々の思いを少しでもとらえ、意図的な指名に生かしていきたいと考える。そして、語句や文に着目させ、友達の発言と関連させ、個々の多様な考え、イメージを膨らませていきたい。

(4) 児童の実態

・国語が好き、どちらかといえば好きな子2/3、嫌いな子1/3。

・自分の考えに分けを付けて話せる子8人、どちらでもない子8人。

・読むことが好きな子12人。これらは、アンケートの結果であるが、子どもが感じているほど話し方は上手とは言えない気がする。また、聞き方がしっかりできない子が多い。聞いているようで、内容を理解していない、そんな子が結構いる。本時は、聞く姿勢にこだわり、文中の言葉を使った説明や友達の意見を聞いての説明などを大いに認めていきたい。